

県病ニュース春号

【理念】奉仕・信頼・進歩 当院は敷地内全面禁煙です。

『第四期中期事業計画』について



院長 井上 敏郎
いの上のうえのろ

県立病院では平成18年の地方公営企業法全部適用以降、4年ごとに病院事業の計画を立てその計画を実現するよう努力してきました。この度、平成31年度（令和4年度）の4年間の事業計画を病院内各部署の意見、要望を集めて病院幹部で意見を出し合った後、本年1月末に外部の有識者の意見をうかがって病院内で原案を策定し、県民意見を踏まえ、県議会での承認を受け作成しました。

なぜ県立病院では事業計画を策定するのでしょうか？それはどのような質の医療をど

のような資金運用で実現しようとするのかをより多くの県民の皆さんに理解・支持してもらうためです。加えて院内の職員の考えを取り入れて目標を定めるので病院一丸となって計画実現に向けて取り組むという職員意識が向上し、またそれを醸成する病院風土、文化を作り上げることができると考えています。

医療に携わる者は往々にして医療の質を追求することばかりに意識が集中してしまいがちです。しかし、医療の質を持続的に向上させていくには健全な資金の運用を基にした経営が不可欠です。県民の皆さんにいつまでも質の高い医療を安心して受け続けていただくためにこの計画は必要なのだと考えています。

そこで第四期中期事業計画の大きなポイントをご説明します。まずこの4年間の計画の基本理念は「挑戦と継続」県民に支持される病院を目指して「です。基本方針では新たに職員からも支持される病院を目指すこと、病院事業の情報発信を進めることを加えました。医療の質も経営の質も、ともに向上を図ることはこれからも継続して行かなければなりません。具体的な中身では前半の2年間でまずは現在進行中の大規模改修工事を完成させること、そして精神医療センターの2年後の開設に向けて準備を進めることの2つが最優先事項となります。また、将来にわたっての急性期基幹病院の役割を果たすために患者さんの遺伝情報を基にした、いわゆる「ゲノ

ム医療体制」をがん医療や周産期医療の領域で整えること、そして高度先進医療として内視鏡手術を支援するロボット手術と診断と治療を一体化させた「ハイブリッド手術室」の導入に向けての検討を行うことです。

以上のようにこれまでの基幹病院の役割に加えて新たな挑戦もさせていただきたいと考えていますのでどうかご理解・ご支援をよろしくお願ひします。



精神医療センター(仮称) 建設工事のご紹介



外観完成予想図

大分県立病院では、今年度から病院本館南側において精神医療センター(仮称)の建設工事が始まりました。

この精神医療センターは、夜間や休日を中心として24時間体制で、急に激しい症状が現れた急性期の精神科の患者さんや重篤な身体合併症の患者さん、症状が重く民間病院では対応が困難な患者さんなどを受け入れて、短期・集中的に治療を行なうことを目的としています。

精神医療センター(仮称)の施設は、鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積は2,994㎡、1階が外来、2階が病棟となる予定です。病床数は36床で、保護室8室、HCU2室、身体合併症個室6室、個室8室、多床室(4名)3室です。

精神医療センターの建設予定地は、平成29年度に用地取得と土地造成工事が完了し、建設工事は平成30年度着工、令和2年秋の開設に向けて準備を進めています。

現在、平成27年度に着手した県立病院全館に及ぶ大規模改修工事を実施しており、入院されている患者さんや来院者の皆様方には、騒音や振動、院内施設の使用制限、工事関係車両の通行などにより、多大なご迷惑とご不便をおかけしており、本誌面をお借りしてお詫び申し上げます。



内観(2F 食堂)イメージ図

加えて、今回の精神医療センター建設工事に伴い、更なるご不便やご迷惑をおかけすることになりますが、関係者(県施設整備課、施工業者、工事監理者及び会計管理課施設管理班)で力を合わせて工事の安全と円滑な施工を第一に工事を進めてまいりますので、引き続き皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(会計管理課施設管理班 課長補佐 安田博紀)



後発医薬品の使用促進について

「後発医薬品(ジェネリック医薬品)」は、「新薬(先発医薬品)」の特許が切れた後に製造される、新薬と同一の有効成分を同一量含み、同一の効能・効果※を持つ医薬品のことです(※新薬が効能を追加している場合などは異なる場合があります)。独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)が厳格に審査のうえ、新薬と同等であるものとして厚生労働大臣が認めているため、安心して使うことができます。後発医薬品は一般的に研究・開発に要する費用が低く抑えられることから、先発医薬品に比べて薬価が安くなっています。国は、患者負担の軽減や医療保険財政を改善するため、後発医薬品の使用を促進する様々な施策に取り組んでいます。

当院も後発医薬品を積極的に使用しており、その割合は年々増えています(右図)。院内で使用する医薬品(外来院内処方も含む)が先発医薬品から後発医薬品に変わること、薬の包装や薬に記載された記号が変わることがあります。ご不明な点があれば、1階薬剤部窓口にお声かけください。



●当院の外来院外処方せんに記載された「【般】」とは？●
一般名処方(処方せんに、医薬品の商品名ではなく、成分名で記載しているもの)のことを表しています。

(薬剤部 薬剤師 田中幸代)

感染症の原因となっている菌を調べています

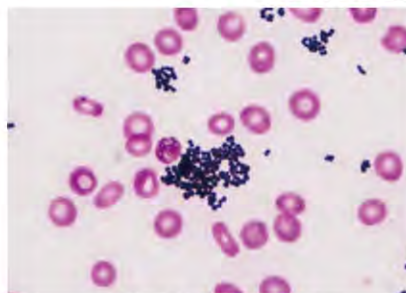
臨床検査技術部の微生物検査では、患者さんから採取された尿や喀痰の中に、感染症の原因となる細菌がないか検査をしており、一刻も早く適切な感染症治療を受けていただけるよう、検査結果の迅速な報告に努めています。

微生物検査は、顕微鏡でしか見えない菌を「培地」の上で育てて、目に見えるまで増やします。その後、菌がいったい何者なのか正体を調べますが、平成30年1月から「質量分析計」という新たな機器を導入しました(県内で2例目)。増えた菌にレーザーを照射し、飛び出す分子の大きさを解析することにより、約10分で正体がわかります。これにより、検体採取から菌の正体が判明するまでにかかっていた時間が、従来の2~4日程度から、1~2日程度と短縮できました。また、その精度も高く、正体不明となることは、ほとんどありません。

(臨床検査技術部 臨床検査技師 一ノ瀬和也)



質量分析計



細菌の顕微鏡写真



培地上で増えた細菌

“光老化”の予防について

太陽の紫外線によってしみやしわなどが出てくることを“光老化”と言います。年齢を重ねることですみやしわは多くなります。加齢による「自然老化」は2割程度で、後の8割は紫外線の影響によるものとされています。光老化は、しみやしわ以外にも、皮膚を脆弱させ、皮膚トラブルが生じやすくなる原因のひとつになります。紫外線対策が必要な時期です。紫外線から肌を守り、お肌の老化を防ぎましょう。

《光老化から肌を守る!!》

- 紫外線の強い時間帯を避ける
- 日陰を利用する
- 日傘を使う、帽子をかぶる
- 袖や襟のついた衣服で覆う
- サングラスをかける
- 日焼け止めを上手に使う



〈日焼け止めの選び方〉

- ◆紫外線散乱剤が入った製品(ノンケミカルと書かれているもの)を選びましょう。
- ◆SPFは15以上、PAは+以上のものを使いましょう。
- ◆少し厚塗りになるように塗るようにしましょう。
- ◆汗で流れたりしたら、こまめに塗り直しをしましょう。



(皮膚・排泄ケア認定看護師 津崎郁弥)

X線装置一式が更新されました。

更新された装置の一部をご紹介します。

一般撮影装置は、撮影後すぐに画像の確認ができるようになり検査時間短縮や検査にかかる患者さんの負担が軽減します。従来より低被ばくで高画質な画像での診断が可能になりました。



一般撮影用

また、移動型X線撮影装置も更新され、撮影した画像をその場で確認できるようになりました。

装置1台でX線撮影と画像確認が可能になり、災害時等にも検査ができるようになります。



歯科撮影用

歯科撮影装置では、従来までの歯列全体を一枚に描出する「パノラマ撮影」に加え、CT撮影が可能になり、対象とする歯の周囲をより鮮明により詳しく描出できます。

一部の撮影室では自動ドアも導入され、車椅子等での出入りが容易になりました。

放射線技術部ではこれからも患者さんに安心して検査を受けていただけるよう、被ばく低減や安全で安心できる医療の提供に努めてまいります。

(放射線技術部 井元めぐみ)

「食欲がない時のひと工夫」シリーズ<その2>

～ 美味しく感じないときのひと工夫 ～

化学療法などの治療後や亜鉛不足によって味覚障害が起こる事があります。空腹であっても美味しく食べられなければ、食欲が落ちてしまいますよね。そこで今回は味覚障害があるときの工夫を紹介します。



味覚障害があるとき = うまみを効かす

味覚障害は肉や魚など、蛋白質や鉄分の多い食品に多く起こります。だしの旨みや柑橘類の酸味、カレー風味でアクセントを付けましょう。肉や魚をその他の蛋白源(卵、乳製品、大豆製品)に変えても良いでしょう。苦味や金属味を感じる時は、だしの効いた汁物がおすすめ。調味料はケチャップやソース、マヨネーズを利用すると苦味が抑えられます。



《 亜鉛を多く含む食品 》

カキなどの貝類やウナギ、卵黄、牛赤身肉、チーズなど

味覚障害を起こしている時はにおいにも敏感になります。温かいものは冷ましてから食べるとにおいが抑えられ、食べやすくなるので試してみてもいいかもしれません。

(栄養管理部 管理栄養士 吉澤香織)

診療情報管理室の紹介

患者さんが病院を受診されると、医師や看護師等はどのような症状があつて患者さんが受診されたのかを確認し、何の病気なのかを調べる検査を行い、治療を行うという一連の診療を行います。その診療の記録を診療録(カルテ)などへ診療記録として記載します。これらの診療記録は、医療の証拠であると同時に、個人史となる重要な記録です。



診療情報管理室では、その診療記録がきちんと記載されているか、また記載や書類に漏れはないかを点検し、診療記録を完成させるための管理を行っています。病院としてきちんと診療記録として残すためでもあります。患者さん側から開示の申し出があつたときに、いつでもきちんと説明できるようにするためでもあります。

また当院は、入院費については病名と処置等の組み合わせで1日あたりの費用を決める「DPC/PDPS(1日ごとの支払い方式)」を取り入れています。この費用は、病名によって大きく変化するため、他部署と連携して適切な病名が付与されているかを確認をし、適切な医療費を請求できるよう活動しています。

(診療情報管理室長 前田 徹)

認知症ケアチームだより

認知症ケアチームのご紹介

認知症ケアチームでは、認知症があっても認知症とうまく付き合いながら安心して入院生活が送れるように、また高齢者の方の困っていることをていねいに伺うようにしてサポートを行っています。

チームメンバーの構成は医師(神経内科・精神神経科)、社会福祉士、管理栄養士、臨床心理士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、看護師、認知症看護認定看護師の16名です。毎週木曜日の15時からメンバー全員で回診を行っています。それぞれの職種の専門性を活かし、主治医や病棟スタッフと協力しながら、認知症の症状の悪化を予防し、療養環境を整え、元の生活が継続できるように安心感につながるケアを検討しています。



認知症ケアチームでは、カレンダーや季節ごとのカードを作成して患者さんに配っています。思い出や得意なことなどを話してもらうきっかけにもなっています。ご本人やご家族のそれぞれの状況や思いを大切にしながら寄り添い、笑顔がみられるように、皆さまに頼ってもらえるチームを目指しメンバー全員が笑顔で活動しています。

何か心配なことがありましたら、ご相談ください。

(認知症看護認定看護師 佐藤容子)

排尿ケアチームだより

排尿ケアチームの紹介

大分県立病院では2016年春より排尿ケアチームという新しい医療チームが活動しております。このチームの活動内容に関してご説明させていただきます。このチームの構成員は泌尿器科医師2名、皮膚排泄ケア認定看護師3名、病棟リンクナース、理学療法士で構成されており、対象としては入院に伴い尿道カテーテルを留置し、抜去後におしっこに関してお困りの症状がある方、もしくはお困りの症状が出ると予想される患者さんです。活動内容としてはおしっこの通りの機能障害の状況を評価し、排尿がうまくいくための計画を作成、ケアを実施し定期的に評価を行うということになります。現在は主治医の先生から依頼を受けた患者さんに対し週1回の回診を行い、また必要に応じてそれ

図1 排尿ケアチームの活動

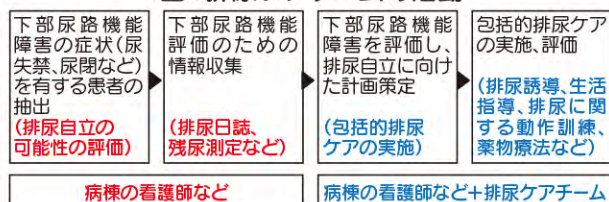
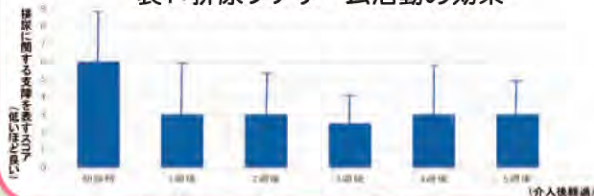


表1: 排尿ケアチーム活動の効果



れ以外の診察を行うと同時に毎日病棟でもケアを行っています(図1: 排尿ケアチームの活動)。これにより多くの患者さんが排尿に関するトラブルが(段階はそれぞれありますが)改善しております(表1: 排尿ケアチーム活動の効果)。

入院後のすべての患者さんが対象になるわけではありませんので入院後おしっこの症状に関してお困りの症状がある方は担当の看護師さんや主治医の先生にご相談ください。排尿ケアチームの対象になる方はチームとしてご協力させていただきます。

(泌尿器科 部長 友田稔久)

患者総合支援センターのご案内

大分県立病院では、入院前から入院後の治療や退院後の生活までを見据えた支援をワンストップで行うため、入退院支援センター、診療支援センター（地域医療連携班、患者相談支援班）、がん相談支援センターを集約し、「患者総合支援センター」を5月7日にオープンしました。

患者総合支援センターの業務

【入退院支援】

入院前から、患者さんの退院後の生活を見据えた支援を行っています。



- ・入院生活オリエンテーション
- ・退院に向けた生活環境の整備と療養支援

【地域医療連携】

患者さんが、必要な医療を継続して受けられるよう地域の医療機関と密接に連携を図っています。



- ・地域の医療機関からの紹介受入
- ・地域の医療機関へ紹介
- ・退院、転院の連絡調整
- ・介護、福祉に関する支援

【医療福祉相談】

患者さんやご家族のさまざまな療養に関するお悩みをお聞きし、問題解決のお手伝いをしています。



- ・治療、療養上の生活相談
- ・医療費等の経済的な相談
- ・社会保障制度の説明

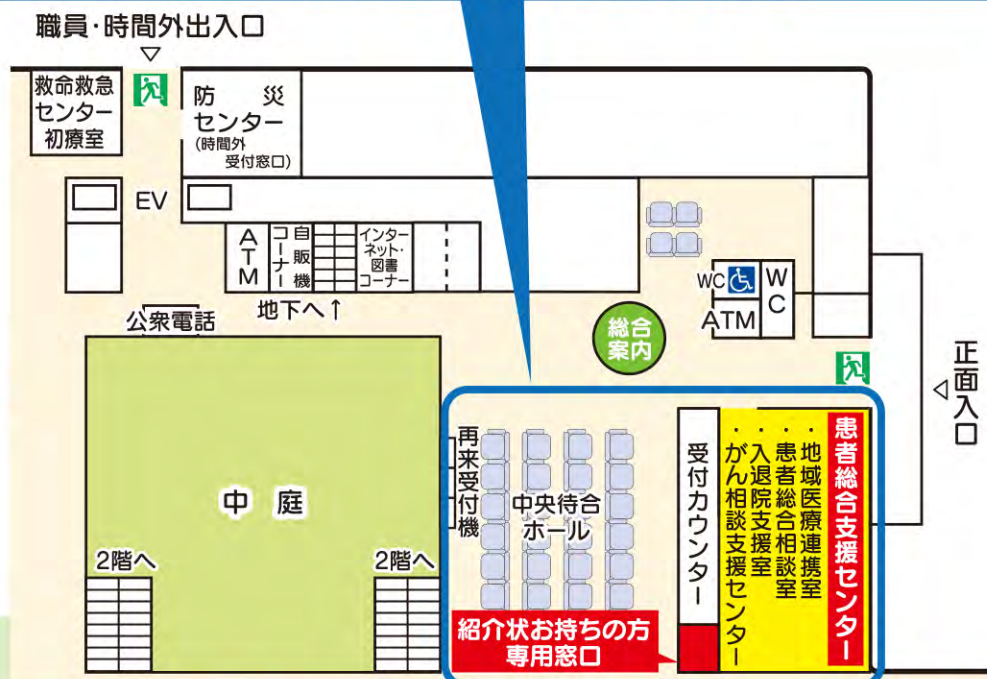
【がん相談】

がんに関するあらゆる心配事をお聞きし、問題解決のお手伝いをしています。

- ・がんに関する相談、情報提供
- ・がんサロンの企画、開催
- ・セカンドオピニオン受入
- ・長期療養者の就労支援（がん以外の患者さんも対象）



これに伴いまして、5月7日から、本館1階にある「紹介状をお持ちの方専用窓口」や「がん相談支援センター、相談室」の場所が変更になります。



外来診療一覽表

注) 診療日が変更になる場合もありますので、予めご了承ください。
(令和元年5月1日現在)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
循環器内科		○	○	紹介のみ	○	○
内分泌・代謝内科		○	○	○	○	○
消化器内科		○	○	○	○	○
腎臓内科		休診	○	休診	○	休診
膠原病・リウマチ内科		○	休診	○	○	○
呼吸器内科	新患 再来	○	急患のみ ○	○	○	○
呼吸器腫瘍内科		○	休診	○	休診	○
血液内科		○	○	○	○	○
神経内科		○	○	○	○	○
外科	消化器 乳腺	○	○	○	○	○
脳神経外科		手術日 休診	○	○	○	手術日 休診
呼吸器外科		手術日 休診	○	手術日 休診	○	○
心臓血管外科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
整形外科		○	○	手術日 休診	○	○
形成外科		休診	○	○	○	休診
眼科		○	手術日 予約のみ	○	手術日 予約のみ	○

診療科	曜日	月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科		○	○	手術日 休診	○	手術日 休診
婦人科	新患 ※紹介患者さん優先とさせていただきます。 再来	○	手術日 休診 ○	○	手術日 休診 ○	○
産科		○	○	○	○	○
小児科		○	○	○	○	○
新生児科		○	○	○	○	○
小児外科		○	○	○	手術日 休診	○
内視鏡科	消化管 気管支	○	○	○	○	○
皮膚科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
泌尿器科	新患 再来	○	手術日 休診 ○	○	手術日 休診 ○	○
精神神経科		○	○	○	○	○
緩和ケア外来		○ 15時から	休診	休診	休診	休診
放射線科		○	○	○	○	○
歯科口腔外科		○	予約のみ	○	予約のみ	○
外来化学療法室		○	○	○	○	○
診療科の判断が 困難な場合の 担当診療科		消化器 内科	1・3・5週 内分泌・ 代謝内科	呼吸器 内科	神経 内科	血液 内科

アクセス

オアシスひろば
三芳 大分 IC
至 豊来
至 抜間
至 野津原
至 豊来
至 野津原
至 豊来
至 野津原

大分県立病院

JR: 大分駅からタクシーで約15分または
南大分駅からタクシーで約8分
バス: 大分駅前・トキハ前バス停からバス・徒歩を含めて約25分
(大分市内中心部から約25分間隔で運行)
駐車場: 有料駐車場(約400台)完備(1時間まで無料)

受付時間 午前8時～午前11時

診療開始時間 午前8時30分

救急患者は24時間受入

休診日 土・日・祝日・年末年始
(12月29日～1月3日)

紹介による受診に関する事は…

地域医療連携班
平日(土・日・祝日除く)
午前8時15分～午後5時(受付は11時まで)
TEL 097-546-7129
FAX 097-546-7368

療養中の心配事や不安などは…

患者相談支援班
平日(土・日・祝日除く)
午前8時30分～午後5時
TEL 097-546-7125

Oita Prefectural Hospital
大分県立病院
ぶによ

〒870-8511 大分市大字豊鏡476番地
TEL 097-546-7111～2(代表) FAX 097-546-0725 総務経営課広報係 2710(内線)
E-mail a80200@pref.oita.lg.jp ホームページ <https://www.oitapref-hosp.jp/>

※当ニュースへのご意見・ご感想は1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。